



## 産業廃棄物処理業ヒヤリハット 企業における具体的取組事例



有限会社 愛知環境センター

安全衛生情報では会員各社へ伺い、社内における安全衛生の具体的な取組事例をご紹介します。

今回ご協力いただきました会員企業は、平成10年3月(有)愛知環境センター設立、圧縮施設、破碎施設、減容固化施設を設け産業廃棄物中間処理施設を運営。平成21年には六面包装機付圧縮梱包施設を設置し、フラフ燃料製造事業を開始。令和3年には破碎施設を追加し、同年10月に三代目代表取締役社長に東久保翔平氏が就任。収集・運搬、中間処理、及びリサイクルへの取り組みに注力されている同社の安全衛生への取り組みについて、東久保社長にお話しを伺いました。



取材にご対応いただきました(有)愛知環境センター東久保社長

### ◆KY(危険予知)記録シート

毎日、当日の作業の中で危険なポイントとそれを回避するための対策案を書き出す。

- ①作業内容、場所
- ②危険要因と事故の型
- ③具体的で実行可能な対策

提出されたKY記録シートを基に、毎朝礼時にて各人発表する。

### ◆ヒヤリハット報告書

記載時、「自分が実体験した」、「ヒヤリハットを見た」と書き分け、自身が気付かない客観的な視点に気付くことができる記述形式が特徴。

- ・リフトで作業中に地面の小さな穴でリフトが傾いた。  
→ 地面の整備を行い、運転時に地面の状態を確認。
- ・場内で選別時、ガラス板に乗ってしまい滑って転びそうになった。  
→ 滑りやすいものがあるかどうか確認。  
周りの作業者にも声かけをする。

- ・ベルトコンベヤーから廃棄物が落下した。コンベヤー横のスイッチ操作者が落下物に当たりそうになった。

→ 少量ずつ廃棄物をベルトコンベヤーに載せる。コンベヤー操作者の退避スペースを確保。必ず目視確認を行う。

### ◆各講習会の実施

- ・フォークリフト社内講習会：2回/年  
フォークリフトの操作時における死角や運転時における注意点などを実演を交え講習を行う。
- ・防災・避難訓練：1回/年  
消防署員を招き、発災時を想定し、社内における避難方法、対応について訓練を行う。
- ・緊急時シミュレーション訓練：2回/年
- ・消火器の設置・使用訓練  
いざという時に素早く消火器の取り扱いができるよう、実際に消火器で消火訓練を実施。
- ・普通救命講習Ⅰ：入社時の研修にて受講

### ◆取組事例

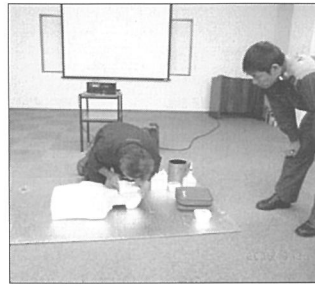
- ・新型コロナウイルス対策  
事務所、及び休憩室に光触媒酸化チタンコーティング(ナノゾーンコート)を実施。
- ・社内照明のLED化
- ・防災マニュアルの策定  
災害時における組織体制、緊急連絡網(社員の安否確認・緊急動員)
- ・地域の清掃活動：2回/年



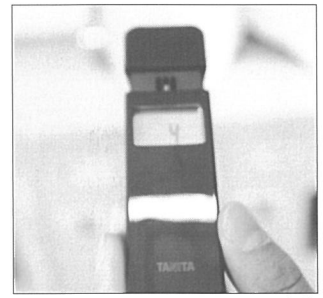
フォークリフト社内講習会



防災・避難訓練



普通救命講習Ⅰ



アルコールチェッカー 3月より実施



あいち女性輝きカンパニー認証取得



健康経営優良法人認定



清掃活動



緊急時シミュレーション訓練

## ◆認定取得について

### ・「健康経営優良法人2020」

2020年より毎年継続中

### ・「愛知県健康経営推進企業」に登録

『管理職及び一般社員それぞれに対する教育』

期間 2000年1月～現在継続中

### 取組内容

全従業員の安全意識・健康意識の向上を図り、けがや病気の予防に繋げるため、毎月第一土曜日に安全衛生会議を実施し、当社で選定した安全衛生管理者より全従業員に対して教育を行っている。テーマは毎回時期を意識したものとしている。

### 取組に対する成果

安全意識、健康意識の向上の効果から業務中の大きな事故はゼロを維持している。また、病気による長期の欠勤も出ていない。

### 工夫したところ

飽きがこないよう、テーマ決めは毎回工夫をしている。機械メーカーから映像教材を借りて講習を行ったり、普段の生活習慣にかかわる疾病やインフルエンザ感染予防、また全従業員から毎月提出されるヒヤリハット報告をもとにディスカッションを行っている。

### ・「あいち女性輝きカンパニー」

2022年3月認証取得

健康経営においても、「女性の健康維持・増進に向けた取組」として、また、東久保会長が（一社）愛知県産業資源循環協会（以下「愛産協」という。）女性部会長職に就いておられることから、ぜひ認定取得をされたかったとのこと。

認定取得後、女性2名が同認定に魅力を感じられて現場職で入社に至りました。産廃業界での人材不足を、新しい世代の取り組みが新しいマンパワーを呼び寄せる！東久保社長ならではの積極的な女性の雇用にチャレンジされた試みは着実に実を結びつつあります。

「新社長としてこれからです。」と、謙遜されていましたが、安全衛生への取り組みがとてもきめ細かく、定期健康診断に婦人科検診の項目を追加しているなど、同社の安全衛生の意識の高さがあちらこちらにうかがわれました。

弊社は敷地が狭いため現場作業は絶えず危険と隣り合わせです。その環境において一番怖いものが“慣れ”です。就業経験の長短に関わらず、全員が同じ安全衛生への意識を共有し、危険回避を素早く行動に移せるよう日々安全衛生教育に重きをおいています。このような意識を社内に定着することができたのも、これまで会長（東久保真弓氏：愛産協女性部会長）が積み上げてきた実績と、私が現在所属する愛産協青年部（金田琳会長）において視察研修委員、教育情報委員での事業企画・開催経験から多くを学んだものであると言えます。

産廃業界は災害事故が多い業種ですが、これからは若い経営者のネットワークを生かし、力強く新しい取り組みで災害事故ゼロを目指し邁進してまいります。  
令和4年4月 東久保翔平



左から 事務職員の丹羽氏、東久保会長、東久保社長（社屋前にて）